

山形県地域密着型サービス自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

※項目番号26 馴染みながらのサービス利用
 項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
 については、小規模多機能型居宅介護事業所のみ記入してください。

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム リバーヒル長井 おりづる
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	山形県長井市
記入者名 (管理者)	梅津 弘司
記入日	平成 21年 3月 15日

山形県地域密着型サービス自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	5月1日開所前職員全員でBS法を用い理念を作り廊下に掲げている。	○	その理念に基づき日頃のケアを行っており、ケアの統一を図っていく。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	ケアに迷った際は理念に振り返りながら、入居者の思いを引きだし、介護計画への反映、ケアに当たるようにしている。	○	入居者・職員とも笑顔が多く見られるようになってきている。今後もケアに迷った際は理念に振り返りその人らしい生活が送れるよう支援していきたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	入居契約時家族に対し理念を話している。また、廊下に理念を掲げ来所者も確認できるようにしている。	○	地域の方々へ対しまだまだ理念は浸透していない。推進委員会などで説明する機会を設け地域の方々へ理解していただけるような働きかけをしていく。
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	近所のスーパーへの買い物や公園へ散歩に出かけたりしている。又、玄関を出るとすぐ隣家の居間や庭が見え散歩やお茶会の声かけを、顔を合わせれば挨拶をしたりしている。	○	地域ボランティアをホームに招いた際近隣者へも声をかけ入居者と一緒にボランティア見学を行った。又、ホームで外出する際近隣者へ声を掛けてから出かけるようにし、おすそわけなども行っている。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	月1回「公民館だより」を配布して頂き地域行事を把握している。又、地域礼大祭・廃品回収・文化祭への参加も実現できている。	○	行事の情報を収集し参加出来る物は参加していただきたい。広報誌を発行しGHの様子を伝えていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	5月1日開所し現在のところそこまでの取り組みは行っていない。	○	今後職員間で話をし取り組んで行けることを検討していく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	5月1日開所し初めての自己評価・外部評価である。これを実施する意義を職員理解しながら今回記入している。	○	今回の評価を活かして今後の関わりなど改善に取り組んでいく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	7月・9月・12月・2月の4回実施。入居状況・サービス内容の報告など行っている。又、委員の方より地域情報を頂き意見交換をしている。	○	委員の方々もまだまだ会議の概要を理解していない。徐々にはあると思うが会議での意見をサービス向上に活かしていきたいと考えている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	推進委員に市職員（福祉事務所）の方もお願いし会議に参加して頂いている。長井市の介護保険事業状況についての説明をして頂く。	○	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人内研修を受けている。	○	現在のところ必要な入居者がいないため活用出来る場はないが必要時に備えて今後も勉強し、学んでいく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修を受けている。	○	現在のところ必要な入居者がいないため活用出来る場はないが必要時に備えて今後も勉強し、学んでいく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>説明は行っている。家族も契約時には思いつかず後日、不安・疑問点など思い出した際はそのつど対応している。</p>	<p>○</p> <p>十分に説明したと思っているが実は伝わってなく、後でトラブルのないよう今後も契約時には慎重に行っていきたい。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>現在のところ苦情などは上がっていないが契約時、苦情などの受け付け場所は説明している。</p>	<p>○</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族来所時ホームでの生活の様子、健康状態、金銭管理、職員の異動などについて報告している。また、広報誌を発行し近況報告をしている。</p>	<p>○</p> <p>今後も定期的に応報誌を発行しホームでの様子を家族にお知らせしていきたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>リバーヒル長井苦情解決委員会でグループホームに対しアンケート調査を行った。その際の意見・要望に対しすぐ対応した。</p>	<p>○</p> <p>今後も意見・要望があがった際はすぐ対応し問題解決に努めていく。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定期的に会議を設け互いに意見交換し実現できるように努めている。又、年度末に自己評価として所属長と面談を行っている。</p>	<p>○</p> <p>今後も定期的に会議を行っていく際意見交換をし、反映させていきたい。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>緊急時などは緊急連絡網を使い対応している。状況の変化に合わせ勤務の調整に努める。</p>	<p>○</p> <p>今後も継続し状況の変化に合わせ勤務の調整を行って行く。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるよう配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動は現在の所はない。</p>	<p>○</p> <p>開所し約1年入居者とも馴染みの関係になっていると感じている。職員の異動があった際は新しい職員が少しずつ顔を出すなどし、対応していきたいと考えている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育委員会を設置し年間を通して法人内研修を計画し実施。また、各自年間目標をたて自己啓発に努めている。(資格取得)	○	時間や勤務の都合がつく限り研修会へ参加し自分の能力向上に努めていきたい
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症グループホーム大会・グループホーム新人職員研修会・認知症介護リーダーフォローアップ研修などの参加をし他事業所の方々と交流する機会を設けている。	○	今後も継続して他事業所の良いところをまねてサービスの向上に努めていきたい
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	1か月に1回スタッフ会議を設け問題提起し改善・工夫につとめている。	○	意見を気軽に交換できる職員関係を壊さずよりよい環境作りに努めていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	1年に1度自己評価表を記入し上司との面接の機会がある。各個人の希望研修など勤務にも組み込んでいる。	○	上司の助言を頂きながら各自の能力の向上、業務への向上心を持ち働けるように努めていく。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	かかわりを持ち話を聞くように努めその中から本人の訴えることに対し、職員間での意見交換を持ちよりよい対応に努めている。	○	何気ない世間話の中から本人の思いを感じ取っていききたい
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面会時など気づいた点、困っていること、不安なことがないか声掛けし、話を聞いている。	○	今後も継続し家族の思いを傾聴しよりよい信頼関係が築けるよう努力していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	開設し今のところ相談はないが医療連携ナースとの相談のうえ必要とされる支援を家族に対し行っている。	○	早急な対応が必要な場合は可能な限り柔軟な対応を行い、場合によっては他のサービスにつなげるなどの対応を行っていききたい。
26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理や野菜栽培などを一緒に行い、作り方を逆に教えてもらうこともある。又、外出の際は入居者・職員一緒に、綺麗な景色を見たり、美味しいものを食べ、喜・楽を共にしている。	○	今後も継続して家族のようなかわりに努めていきたい
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	実施できており、家族と外出時の写真を見てもらったり、日々の生活の様子を話したり、情報を共有している。また、各行事への家族の参加も促している。	○	現在のおこなっていることを継続し家族とともに入所者を支えていきたいと考えている
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	芋煮会やクリスマス会への家族の参加。いも煮やケーキなどを家族に作って頂き、入居者の家族間の交友を深める。	○	夏祭りへの参加（家族）・ホームの小行事への参加を促していく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話の訴え時提供している。また、個別ケアにてパチンコや友人へ会いに出かけている。	○	年賀状も去年は知人や家族へ出している。今年も暑中見舞いなどを作成し馴染みの関係が途切れないようにしていきたい。また、馴染みの場所にも引き続き行ききたいと考えている
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の中に入り耳の遠い方でも会話に入れるような援助をおこなっていきおる。又、食席の検討も行っている。	○	できる能力、作業を提供しながら入居者同士のかかわりが円滑に行われるように支援していく

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院退所された方が2名おり、その後の継続的な関わりは必要としなかった。	○	今後このようなケースがおられた場合、対応していく。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族・知人からお話を聞き、センター方式を取り入れ思いや希望を把握することに努めている。	○	今後も会話の中であったり、センター方式を用いて本人の思いを引き出しここでの生活が家での生活のように思われるように支援していきたい
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・知人からお話を聞き、センター方式を取り入れ思いや希望を把握することに努めている。	○	現在行っていることを継続し、本人の本当の思いを把握することに努めていきたい
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者1人1人の生活のリズムを理解すると共に、行動や小さな動作から出来る能力を把握するように努めている。又、毎月のスタッフ会議にて必要時検討している。	○	現在行っていることを継続し、本人の状態の詳細を把握することに努めていきたい
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を用いよく暮らすための課題を見出し、それをもとに定期的にケアカンファレンスを行い介護計画を作成している。	○	現在行っていることを継続し、本人がホームでの生活をよりよくできるような計画を作成していきたい
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	センター方式を用い記録に残し状況に応じ介護計画の見直しを行い現状に即した新たな介護計画を作成している。	○	今後も継続し定期的な見直しや状態変化時のプランの変更を行っていく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録をもとに介護計画の見直し、評価を行っている。	○	今後も継続し情報の共有や計画の見直しを行っていく
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、公民館、図書館、その他公共的施設などの協力を得ながら支援している	地区の公民館主催の文化祭に作品を展示する。また、準備段階の話し合いにも参加している。	○	ボランティア来所し入居者と楽しい時間を過ごしている。また運営推進委員会で地区行事を教えていただき参加できる行事へは参加している
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や生活支援上の必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、介護保険外も含めて他のサービスを利用するための支援をしている	パワーリハビリを実施、マッサージ師による介護保険外のサービスも実施している。	○	今後も継続し制度の把握とケアマネジャーとの連携に努めていきたいと考えている
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	ケアマネジャー・地域住民・民生委員・地域包括支援センターの協力を得て入居している。(現在)	○	今後も必要時対応していく
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅生活からの継続で、月に1回かかりつけ医を受診し必要であれば救急病院にも紹介状を書いてもらい受診している。また、受診の際は受診時連絡票を作成し連絡を図っている。	○	入居者が入院し退院の際は退院後の生活についてDrより家族・ホーム職員との話し合いを希望し取り組みたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	<p>入居者のかかりつけ医師の中で認知症に詳しい医師が8名中3名おられる。入居者1名の受診の中で職員も1名同行することからその中で情報の収集に必要な助言をいただいている。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	<p>今後も継続し対応していく</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	<p>今後も継続し対応していく</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>終末期にむけ本人の希望・家族の協力・かかりつけ医の協力にて話し合う必要があり、今後の課題である。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>現在のところそのようなケースはないがこのよう際は迅速に対応できるように準備していく</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	<p>今後も継続し対応していく</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	①入所者・面会者の目の届くところには書類などおかげ事務所に保管している。②職員は守秘義務を遂行している。③本人を不快な気分にならぬよう尊敬の慈愛のある言葉遣いを心がけている	○ 今後も継続しプライバシーの確保に努めていく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	その方の表情や一言一言に耳を傾け聞き逃さぬようにしている。又、職員側で決めたことを押しつけるのではなく複数のものから入居者自身が選択出来るような場面を作っている。	○ 今後も継続し対応していく
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	眠気が強い時は臥床を促し自室で本・新聞を読むことに対しその提供に努めている。一人になりたい時は一人で、皆さんと一緒にいい時はフロアでも皆さんと穏やかに過ごせる雰囲気作りに努めている。	○ 団体行動に対し強引な参加はせず本人の意志に添うように対応していく
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	着用する衣類の選択が出来るような声かけを行い出来るだけ好みの物を着用できるようにつとめる。但し、温度の変化もあるためその都度着脱を促していく。家族の協力もあり、「おなじみさん」の店へ出向いていけるようにしている。それにより外出の機会にもなり気分転換につながる	○ 今後も継続し対応していく
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	幼き時代の懐かしい味を味わうため職員も教えて頂きながら料理にはげみ野菜の下準備なども「してもらおう」ではなく「一緒に楽しくできる」よう孤立しないようにしている。あと片付けも「お任せ」ではなく「一緒に」をモットーに職員・入居者とも協力しながらこなしている。	○ 今後も継続し対応していく
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	日常の会話の中で好物を把握したり、昔懐かしい食べ物などを聞き出し一緒に教わりながら料理している。個人ごとリクエストメニューを聞き献立に取り入れている。	○ 今後も継続し対応していく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	そわそわしたりおちつきのない時などトイレの有無を問い促していく。排泄の有無の間に敏感で不快に感じる方へはさりげなく対応するが観察はおこたらない。紙パンツ・パットなど汚染があればさりげなく交換しいつも清潔につとめている。	○	今後も継続し対応していく
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日は定めていないが時間は午後と定めている。しかし、入浴当日体調不良や入浴拒否が診られた場合は見送り、無理強いせず、体調に合わせた入浴を実施。希望があれば受け入れ対応している。午前中に入浴実施していることもある。	○	今後も継続し対応していく
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し生活のリズムを整えるように努めている。また、1人1人の体調や、表情、希望などを考慮してゆっくり休息がとれるよう支援している。	○	今後も継続し対応していく
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	裁縫が得意な方には縫い物など行い、農業に携わってきたかたには花・野菜の栽培に経験や知恵を発揮出来る場を提供し、楽しい時間を過ごして頂いている。軽作業であっても大切な役割だからと声がけし自信を持って取り組めるよう支援している。	○	今後も継続し対応していく
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や外出した際は本人の好きな物を選択しレジにて精算の際あたりまえにしていた事を職員見守りのもと支援している。又、職員と一緒にパチンコに行き見守りながら支援している。	○	今後外出する機会も増えてくるため家族の協力も得て金銭管理面での支援も行っていく
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	花への水やり・玄関前の掃除・近所への買い物・隣接の施設などへ積極的に外出するよう職員間でも協力している。	○	今後も継続し対応していく
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の協力と理解のもと季節の行事への参加を企画し支援している。(母体の夏祭り) さしこ・ちぎり絵展など催し物に個別対応で出かけている。	○	今後も継続し対応していく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	実施しており、ダイヤルを押す・宛名、住所を書くなど出来ない部分のみお手伝いしている。家族や知人へ年賀状をだしている。	○	今後も継続し対応していきたい。今年度は暑中見舞いや家族への手紙を送付書類に同封して送りたいと考えている
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間も特に定めておらず仕事帰りや家族の都合の良い時間帯にいつでも訪ねて来ていただけるような配慮をしている。	○	今後も継続し対応していく
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	権利擁護・身体拘束に関する勉強会を母体の教育委員会主催で行っている。それに参加し職員の共有意識を図っている。	○	各自で引き続き学習しより高い意識やより深い知識の習得の向上に努めていく
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる	職員互いに声がけし、入居者が外出しそうな様子を察知したらさりげなく声掛けし、一緒についていくなど安全面に配慮して自由な暮らしが出来るようにしている。	○	今後も継続し対応していく
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	記録などの事務作業は入居者と同じ空間で行い、さりげなく全員の状況を把握するように努めている。夜間は数時間ごと入居者の様子を確認すると共に、起きて来られた時はすぐ対応出来るような場所で作業を行っている。	○	今後も継続し対応していく
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	①刃物・針・はさみ 使用中の見守り本人の承諾を得る ②タバコ ホーム内禁煙にて外へお連れし一緒に見守る。置き場所の徹底。	○	今後も継続し対応していく
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	①転倒 歩行状態の観察をしながら追いかけてケアなど行っている。②行方不明 玄関センサー（66番と同様）③誤薬 各自袋を用意し明示している。3回確認しながら内服している。 @ AED を学び緊急時に応じられるよう努めている。	○	定期的に離設や火災、救急時の対応の訓練を行っていく。転倒や窒息、誤薬などは前回や他部署の事故報告、その後の対応策などを参照し事故の防止に努めていきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時対応の勉強会講習会などへ参加し体験・習得するようにしている。夜間緊急時対応マニュアルを用意している。今年度は消防署の協力も得て救急蘇生の講習会へも参加した。	○	今後も継続し勉強会へ参加し、知識の習得に努めていく
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓を実施している。災害時の対応・マニュアルなど用意している。	○	今後も継続し対応していく。近隣者にも協力を得られるような働きかけを行っていく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居前に説明している。また、入居中の様子など面会時や電話で報告し情報の共有に努めている。	○	今後も継続し話し合いの場を持っていきたい。説明の際は丁寧にかつ誤解を招かないような言葉を選んで対応していく
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	申し送りや記録に残し周知徹底している。また、定期受診時など主治医の方へ相談・指示を頂き対応している。医療連携ナースとの連絡も密に情報の共有に努めている。(電話・医療連携ファイル)	○	今後も継続し情報の共有に努めていく
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人1人定期的に処方箋を交換。薬の準備時など職員2人で対応し処方箋を確認しながら理解に努めている。服薬の際は袋の記名・いつの薬か声に出して確認しながら提供している。	○	今後も継続し副作用が見られた際はすぐ対応できるようにしていきたい
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	家族・主治医・看護師などに相談、指示を頂きながら1人1人に合った対応にこころがけ実施している。水分強化やリハビリ体操、排泄の確認など行っている。	○	毎日TV体操やひざ体操を行っている。また日課を通じて水分を多く摂取していただけるように対応している
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後声がけ、見守り、場合によっては介助し行っている。義歯に関しては週に1回に実施している。	○	今後も継続し、口腔内の清潔維持に努めていく

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各自の摂取量に合わせ提供しており、食事がとれていない方は食事・水分チェック表を使い観察を行っている。また、いつもより量が少ない場合も記録に残している。1週間のメニュー表も管理栄養士に確認して頂きアドバイスを頂いている。	○	今後も継続し、栄養のバランスが偏らないようにしていきたい
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	早期発見・早期予防に努めている。また、家族の同意の下、入居者の予防接種(インフルエンザ)職員の予防接種を行っている。	○	感染があった場合、感染対策マニュアルに沿って対応していく
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	包丁・まな板・ふきん等1日1回消毒を行っている。食材の残りは鮮度や状態の確認をしたり、冷蔵庫も1週間に1回点検・掃除を行っている。	○	今後も継続し、衛生の管理、食材の管理に努めていきたい
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関廻りに花を設置し明るい玄関とし入居者の写真も飾り家庭的な雰囲気作りに努めている。	○	今後も継続し居心地の良い環境作りに努めて行きたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂には生け花、玄関には写真を飾りフロア内にも季節感を取り入れている。	○	今後も継続し居心地の良い環境作りに努めて行きたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ等をおきゆったりとした空間作り、好きな場所に座れるようにしている。	○	今後も継続し居心地の良い環境作りに努めて行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が昔から使用していたタンス（仏壇）や、写真、使い慣れた日用品などそのまま持って来て頂き居心地の良さに配慮している。	○	今後も継続し居心地の良い環境作りに努めていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度・湿度を9時・16時にチェック表に記入し必要時、換気をしたり温度調節に努めている。	○	今後も継続し居心地の良い環境作りに努めていきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー（風呂場段差がない）IHを設置し安全に調理が出来るようにしている。アイランドキッチンのもとコミュニケーションをとりながら家事が出来るように取り入れている。	○	今後も継続し居心地の良い環境作りに努めていきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室には本人の名前と写真を明示している。夜間真っ暗にせず足下ライトや廊下の電気2カ所付けている。	○	今後も継続し居心地の良い環境作りに努めていきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	プランターで花や野菜を育て利用者と一緒に水掛を行っている。また、廻りの草むしりなども行っている。	○	今後も継続し居心地の良い環境作りに努めていきたい。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- 必ず毎月の行事を（バスハイク・家族を交えての行事）行っている。又、推進委員会でこれからある地区の行事をお知らせして頂き、出来る限り参加している。
- ホーム内レイアウトを毎月ごと入居者様と一緒に作成・掲示している。
- 好きなメニュー（リクエストメニュー）献立に取り入れている。
- 行事・ボランティア来所時には近隣の方にお誘いの声掛けを行っている。